

周炎重症化メカニズム解析. 第63回秋季歯周病学会学術大会, web開催, 2020年10月16日, プログラムおよび講演抄録集: 108頁, 2020.

- 21) 日吉 巧, 土門久哲, 前川知樹, 田村 光, 米澤大輔, 多部田康一, 寺尾 豊: 好中球エラストーゼによる歯周炎重症化メカニズム解析と新規治療法への応用. 令和2年新潟歯学会第2回例会, 新潟, 2020年11月7日, プログラムおよび講演抄録集: 11頁, 2020.
- 22) 目黒史也, 柿原嘉人, 川崎真依子, 川崎勝盛, 丹原惇, トウラカナン スッパラック, 工藤武久, 山田茜, 前田健康, 多部田康一, 佐伯万騎男, 大峯 淳: Reptin は胎仔上皮における DNA 損傷応答を介して器官形成を制御する. 令和2年新潟歯学会第2回例会, 新潟, 2020年11月7日, プログラムおよび講演抄録集: 11頁, 2020.
- 23) 山崎恭子, 中島麻由佳, 竹内麻衣, 原 実生, 都野隆博, 松岸 葵, 松川由実, 佐藤圭祐, 高橋直紀, 多部田康一, 山崎和久: *Porphyromonas gingivalis* 経口投与は腸内細菌の変化を介してNAFLD病態に影響を与える. 令和2年新潟歯学会第2回例会, 新潟, 2020年11月7日, プログラムおよび講演抄録集: 12頁, 2020.
- 24) 峯尾修平, 高橋直紀, 都野隆博, 野中由香莉, 多部田康一: ヒト歯肉上皮細胞における抗酸化ストレス応答を増強する食物由来ペプチドの探索. 令和2年度新潟歯学会第2回例会, 新潟, 2020年11月7日, プログラムおよび講演抄録集: 12頁, 2020.

【受賞】

- 1) 田村 光: 米由来ペプチドによる炎症制御機構の探索と歯周病治療への応用研究. 新潟歯学会学術賞(奨励賞)大学院部門, 2020年2月5日.
- 2) 原 実生: A bacterial metabolite ameliorates periodontal pathogen-induced gingival epithelial barrier disruption via GPR40 signaling. 日本歯周病学会奨励賞, 第63回秋季日本歯周病学会学術大会, 2020年10月16日.
- 3) 田村 光: エリスロマイシンによる DEL-1 誘導を介した破骨細胞の制御. Sunstar Young Investigator Award, 第63回秋季日本歯周病学会学術大会, 2020年10月16日.
- 4) 日吉 巧: 好中球エラストーゼによる歯周炎重症化メカニズム解析と新規治療法への応用. 2020年度新潟歯学会学術賞(歯学会奨励賞), 2021年2月3日.
- 5) Yamazaki K: Oral pathobionts aggravate NAFLD through modulation of gut dysbiosis. IADR Unilever Hatton Competition and Awards, 98th General Session of

the International Association for Dental Research, March 17, 2020.

【その他】

- 1) 日吉 巧: 公益財団法人 森田奨学育英会 奨学生, 2020年7月30日.
- 2) 日吉 巧: 一般財団法人 岩垂育英会 奨学生, 2020年8月28日.
- 3) 日吉 巧: 好中球エラストーゼに着目した歯周炎重症化メカニズム解析と新規治療法の探索. 一般財団法人 岩垂育英会, 令和2年度奨学生研究成果発表会, 2021年3月13日.

歯科矯正学分野

【著書】

- 1) 齋藤 功: 矯正歯科治療における抜歯の必要性と判断基準 - 治療例をとおして考える -. 臨床家のための矯正 YEAR BOOK 2020 (北峯康充 編), 158-161頁, クインテッセンス出版, 東京, 2020.

【論文】

- 1) Yamaguchi H, Kitami K, Wu X, He L, Wang J, Wang B, and Komatsu Y: Alternation of DNA damage response causes cleft palate. *Front. Physiol.* vol.12 649492. 2021, doi:10.3389/fphys.2021.649492
- 2) Yamada A, Kawasaki M, Miake Y, Yamada Y, Blackburn J, Kawasaki K, Trakanant S, Nagai T, Nihara J, Kudo T, Meguro F, Schmidt-Ullrich R, Liu B, Hu Y, Page A, Ramírez Á, Sharpe PT, Maeda T, Takagi R, Ohazama A: Overactivation of the NF-κB pathway impairs molar enamel formation. *Oral Dis.*26: 1513-1522, 2020
- 3) Yamada Y, Trakanant S, Nihara J, Kudo T, Seo K, Saeki M, Kurose M, Matsumaru D, Maeda T, Ohazama A: Gli3 is a key factor in the Schwann cells from both intact and injured peripheral nerves. *Neuroscience* 432:229-239, 2020
- 4) Trakanant S, Nihara J, Kawasaki M, Meguro F, Yamada A, Kawasaki K, Saito I, Maeda T, Ohazama A: Molecular mechanisms in palatal rugae development. *J Oral Bioscience* 62(1): 30-35, 2020.
- 5) Nakata J, Akiba Y, Nihara J, Thant L, Eguchi K, Kato H, Izumi K, Okura M, Otake M, Kakihara Y, Saito I, Saeki M: ROCK inhibitors enhance bone healing by promoting osteoclastic and

- osteoblastic differentiation. BBRC 526 (3): 547-552, 2020.
- 6) Trakanant S, Nihara J, Nagai T, Kawasaki M, Kawasaki K, Ishida Y, Meguro F, Kudo T, Yamada A, Maeda T, Saito I, Ohazama A : MicroRNAs regulate distal region of mandibular development through Hh signaling. J Anat 238:711-719 2021.
 - 7) Amitani K, Takeyama M, Nihara J, Takahashi K, Ohshima Y, Kobayashi T, Saito I: The Relationship between Severity of Obstructive Sleep Apnea and Maxillofacial Morphology and BMI; from the Point of View of Sex and Age Distribution. Oral Sci Int 17(3): 147-157, 2020.
 - 8) Oomori Y, Nihara J, Takahashi K, Saito I: Changes in vermilion lip morphology following orthodontic treatment with premolar extraction for Angle Class II maxillary protrusion. APOS Trends Orthod 10(2):89-95, 2020.
 - 9) 丹原 惇：矯正歯科領域における数値シミュレーションの実際。日歯理工誌 40(1)：13-16, 2020.
 - 10) 丹原 惇：初学者のための外科的矯正治療の診断と治療方針立案の基礎。日顎変形誌 30(4)：294-298 頁, 2020.
 - 11) 丹原 惇, 齋藤有吾, 松下佳代, 小野和宏, 秋葉陽介, 西山秀昌：論証モデルを用いたアカデミック・ライティングの授業デザインの有効性。大学教育学会誌 42(1)：125-134 頁, 2020
 - 12) 深町直哉, 坂上 馨, 栗原加奈子, 阿部 遼, 小野高裕, 齋藤 功：全自動解析装置を用いた骨格性下顎前突症患者における咀嚼能力と顎顔面形態との相関性。新潟歯学会雑誌 50(1)：27-28 頁, 2020.
 - 13) 倉部華奈, 隅田好美, 小嶋 拓, 加藤祐介, 齋藤 功, 小林正治：外科的矯正治療による顎変形症学科者の心理・社会的変化の過程：グラウンデッド・セオリー・アプローチによる解析。日口外誌 66(4)：178-187 頁, 2020.
 - 14) 片桐 渉, 小林正治, 佐々木朗, 須佐美隆史, 須田直人, 田中栄二, 近津大地, 富永和宏, 森山啓司, 山城 隆, 齋藤 功, 高橋 哲：本邦における外科的矯正治療の実態調査－2017 年度日本顎変形症学会実態調査の結果より－。日顎変形誌 30(3)：213-225 頁, 2020.
- 【研究費獲得】**
- 1) 丹原 惇, 大峽 淳, 齊藤一誠：舌誘導メカニズムの解明。日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C), 20K10156, 2020.
 - 2) 大竹正紀：ストレス誘発性の顎顔面痛を軽減する COX 阻害剤の新たな役割。日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究, 20K18453, 2020.
 - 3) 上村藍太郎：内因性カンナビノイド機構の中枢性制御に着目した神経障害性疼痛の新規治療戦略。日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究, 20K18688, 2020.
 - 4) 北見公平：矯正力に対する歯根膜の部位特異的な組織応答メカニズムの解明。日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究, 19K19288, 2020.
 - 5) 河村智子：口腔がんの遊離と浸潤を抑制する新規治療標的の同定。日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究, 20K18472, 2020.
 - 6) 網谷季莉子：HIF1 α 活性化剤のびらん性・潰瘍性口内炎に対する新規治療薬として有効性検証。日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究, 20K18471, 2020.
 - 7) 栗原加奈子：舌圧と口唇・頬圧の同時測定による骨格性開咬症の新たな機能的解析法の確立。日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究, 20K18662, 2020.
 - 8) 藤田 瑛：強直症の発症メカニズム解明。日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究, 20K18753, 2020.
 - 9) 水越 優：矯正的歯の移動に寄与する歯根膜幹細胞の新規同定法の開発。日本学術振興会科学研究費補助金 研究活動スタート支援, 20K23023, 2020.
 - 10) Arai M, Kitami K, Kaku M, Mizukoshi M, Uoshima K, Saito I: Possible contribution of Sox9 in development and maintenance of periodontal ligament. 東京矯正歯科学会 9thIOOC レジデント研究支援基金, 2020.
 - 11) 中田樹里：矯正学的歯の移動を促進する ROCK (Rho キナーゼ) 阻害剤の作用機序の解明。日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究, 19K19263, 2019.
 - 12) 坂上 馨：顎変形症に対する Visual feedback を応用した新規筋機能療法の開発。平成 30 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 若手研究, 18K17220, 2018.
 - 13) 大森裕子：安全な歯科治療のためのレオロジー-超音波で硬化を操る印象方法の開発-。平成 30 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 若手研究, 18k17279, 2018.

- 14) (延長分) 竹山雅規, 齋藤 功, 丹原 惇, 高橋功次朗: 矯正-呼吸器内科連携による閉塞性睡眠時無呼吸発症・重症化リスク予測システムの開発. 令和元年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C), 17K12042, 2018.
- 15) (延長分) 高橋功次朗: 口唇閉鎖機能の定量化による新治療目標への臨床応用. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究(B), 17K17319, 2017.

【招待講演・シンポジウム】

- 1) Saito Isao, Goonewardena Mithran: 「現代でも変わらぬ Edgewise 治療の基本と変遷、現状と進歩」コーディネーター. 9th International Orthodontic Congress (第79回日本矯正歯科学会、12th APOC 併催) JOS セッション, 2020年10月6日(バーチャル開催).
- 2) 齋藤 功: シンポジウム2「Japanleft について考える-活動の現況と今後-」コーディネーター(齋藤 功、奥本隆行). 第44回日本口蓋裂学会総会・学術集会(誌面開催). 日口蓋誌 45(2): 64-69 頁, 2020.
- 3) 齋藤 功: 多施設共同研究の必要性・実践と Japanleft 委員会活動概要. シンポジウム2「Japanleft について考える-活動の現況と今後-」. 第44回日本口蓋裂学会総会・学術集会(誌面開催), 日口蓋誌 45(2): 65 頁, 2020.

【学会発表】

- 1) Saito D, Sakuma H, Kato Y, Hasebe D, Katagiri W, Saito I, Kobayashi T. Changes in bone metabolism markers following orthognathic surgery. 59th Annual Meeting of Korean Association of Maxillofacial, Plastic and Reconstructive Surgery, Hwaseong-si, Korea, October 29 - 31, 2020.
- 2) Kamimura R, Hosain MZ, Takahashi K, Kitagawa J, Saito I: Attenuation of neuropathic pain by inhibiting the degradation of 2-arachidonoylglycerol following an injury to the trigeminal nerve in mice. 9th International Orthodontic Congress (第79回日本矯正歯科学会、12th APOC 併催) (バーチャル開催), October 4 - 6, 2020.
- 3) Arai M, Kitami K, Kaku M, Mizukoshi M, Oushima K, Saito I: Possible contribution of Sox9 in development and maintenance of periodontal ligament. 9th International Orthodontic Congress (第79回日本矯正

歯科学会、12th APOC 併催) (バーチャル開催), October 4 - 6, 2020.

- 4) Mizukoshi M, Kaku M, Kitami K, Arai M, Uoshima K, Saito I: Characterization of the Label Retaining Cells in Periodontal Ligament. 9th International Orthodontic Congress (第79回日本矯正歯科学会、12th APOC 併催) (バーチャル開催), October 4 - 6, 2020.
- 5) Kurihara K, Takahashi K, Nihara J, Nagasaki T, Hori K, Fukui T, Ono T, Saito I: Investigation of Time Sequences of Tongue Pressure and Orofacial Muscle Activities during Swallowing in Patients with Anterior Open Bite. 9th International Orthodontic Congress (第79回日本矯正歯科学会、12th APOC 併催) (バーチャル開催), October 4 - 6, 2020.
- 6) Kudo T, Kawasaki M, Kawasaki K, Saito I, Ohazama A: The role of the Ift88 in amelogenesis. 9th International Orthodontic Congress (第79回日本矯正歯科学会、12th APOC 併催) (バーチャル開催), October 4 - 6, 2020.
- 7) 工藤武久, 丹原 惇, 川崎麻衣子, 川崎勝盛, Supaluk Trankanant, 目黒史也, 山田 茜, 前田健康, 齋藤 功, 大峽 淳: エナメル形成における Ift88 の機能解析. 令和2年度第2回新潟歯学会例会, 新潟, 2020年11月7日, 新潟歯学会雑誌 50(2): 117 -118 頁, 2020.
- 8) 長崎 司, 丹原 惇, 堀 一浩, 高橋功次朗, 栗原加奈子, 福井忠雄, 小野高裕, 齋藤 功: 骨格性下顎前突症患者における嚥下時舌圧発現様相および舌骨上筋群筋活動の検討. 令和2年度第2回新潟歯学会例会, 新潟, 2020年11月7日, 新潟歯学会雑誌 50(2): 117 頁, 2020.
- 9) Thant L, Kakihara Y, Nakata J, Saito I, Saeki M: How does ROCK inhibitor enhance osteoblastic differentiation? 令和2年度第2回新潟歯学会例会、令和2年11月7日、新潟市、新潟歯学会雑誌 50(2): 118 頁, 2020 (抄録集 p.14) .
- 10) 遠藤 諭, 加藤祐介, 原 太一, 須田大亮, 長谷部大地, 佐久間英伸, 齋藤大輔, 齋藤直朗, 新美奏恵, 西山秀昌, 片桐 涉, 林 孝文, 齋藤 功, 小林正治: 外科的矯正治療にともなう顎関節症状と下顎頭形態の変化. 令和2年度第2回新潟歯学会例会, 新潟, 2020年11月7日, 新潟歯学会雑誌 50(2): 120 頁, 2020.
- 11) 目黒史也, 柿原嘉人, 川崎真依子, 川崎勝盛, 丹原 惇, トウラカナン スッパラック, 工藤武久, 山田 茜, 前田健康, 多部田康一, 佐伯万騎男, 大峽 淳: Reptin は胎仔上皮における DNA 損

- 傷応答を介して器官形成を制御する. 令和2年度第2回新潟歯学会例会, 新潟, 2020年11月7日, 新潟歯学会雑誌 50(2): 115 -116 頁, 2020.
- 12) 遠藤 諭、加藤祐介、長谷部大地、船山昭典、新美奏恵、片桐 渉、西山秀昌、林 孝文、齋藤 功、小林正治: 外科的矯正治療にともなう顎関節症状と下顎頭形態の変化. 第65回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会, 名古屋, 2020年11月13日-15日(ライブ配信), 日口外科誌 66: 44 頁.
- 13) 中田樹里, 齋藤 功: 上顎左側第二小臼歯の矮小を伴う Angle Class I 叢生症例. 第35回甲北信越矯正歯科学会大会, 塩尻, 2020年7月12日, 同学会学術大会プログラム・抄録集: 24 頁, 2020.
- 14) Salazar ARE, Kodama Y, Yuki R, Ominato R, Nagai T, Watanabe M, Yamada A, Ichikawa K, Nihara J, Iida A, Ono K, Saito I, Takagi R: Occlusal evaluation using Modified Huddart and Bodenham scoring system following two-stage palatoplasty with Hotz plate: The comparison between three different timing of hard palate closure surgery. 令和2年度第1回新潟歯学会例会, 新潟, 2020年7月4日, 新潟歯学会雑誌 50(2): 103 -104 頁, 2020.
- 15) 結城龍太郎, 児玉泰光, Andrea Rei Salazar, 大湊 麗, 永井孝宏, 渡部桃子, 山田 茜, 小林亮太, 市川佳弥, 丹原 惇, 朝日藤寿一, 飯田明彦, 小野和宏, 齋藤 功, 高木律男: 異なる二段階口外形成手術法を施行した片側性唇顎口蓋裂患児の5-Year-Olds' Index による咬合評価. 令和2年度第1回新潟歯学会例会, 新潟, 2020年7月4日, 新潟歯学会雑誌 50(2): 107 -108 頁, 2020.
- 16) 山田 茜, 川崎真依子, 川崎勝盛, 工藤武久, 目黒史也, 高木律男, 大峽 淳: エナメル形成における NF- κ B の機能解析. 令和2年度第1回新潟歯学会例会, 新潟, 2020年7月4日, 新潟歯学会雑誌 50(2): 103 頁, 2020.
- 17) 丹原 惇、齋藤 功: 初学者のための外科的矯正治療の診断と治療方針立案の基礎. 特定非営利活動法人日本顎変形症学会主催の第16回教育研修会(Webinar 開催), 新潟, 2020年6月24日-7月9日, 2020.
- 18) 坂上 馨, 栗原加奈子, 深町直哉, 阿部 遼, 堀一浩, 小野高裕, 齋藤 功: 骨格性下顎前突症患者の顎矯正手術後における嚙下時舌圧発現様相の解析(学会賞受賞講演). 第30回日本顎変形症学会総会・学術大会(Webinar 開催), 新潟, 2020年6月24日-7月9日, 日顎変形誌 30(2): 122 頁, 2020.
- 19) 長崎 司, 栗原加奈子, 堀 一浩, 高橋功次朗, 丹原 惇, 福井忠雄, 小野高裕, 齋藤 功: 下顎前突症患者における嚙下時舌圧および顎顔面筋群筋活動の検討. 第30回日本顎変形症学会総会・学術大会(Webinar 開催), 新潟, 2020年6月24日-7月9日, 日顎変形誌 30(2): 162 頁, 2020.
- 20) 佐久間英伸, 長谷部大地, 新美奏恵, 齋藤大輔, 齋藤直朗, 須田大亮, 片桐 渉, 齋藤 功, 小林正治: 顎矯正手術施行前後における咀嚼機能の変化について. 第30回日本顎変形症学会総会・学術大会(Webinar 開催), 新潟, 2020年6月24日-7月9日, 日顎変形誌 30(2): 161 頁, 2020.
- 21) 池田順行, 小野和宏, 阿部裕子, 西山秀昌, 齋藤 功, 高木律男: 外科的矯正治療を行った静脈奇形を伴う顎変形症の1例. 第30回日本顎変形症学会総会・学術大会(Webinar 開催), 新潟, 2020年6月24日-7月9日, 日顎変形誌 30(2): 137 頁, 2020.
- 22) 齋藤大輔, 原 太一, 佐久間英伸, 長谷部大地, 新美奏恵, 丹原 惇, 片桐 渉, 齋藤 功, 小林正治: デジタル立体写真測量法とコンピューター断層撮影法から得られた三次元顔貌形態の比較. 第30回日本顎変形症学会総会・学術大会(Webinar 開催), 新潟, 2020年6月24日-7月9日, 日顎変形誌 30(2): 145 頁, 2020.
- 23) 加藤祐介, 齋藤直朗, 新美奏恵, 佐久間英伸, 長谷部大地, 齋藤大輔, 丹原 惇, 齋藤 功, 小林正治: 超音波切削器を用いた顎矯正手術における Serrated aggressive knife チップの有用性. 第30回日本顎変形症学会総会・学術大会(Webinar 開催), 新潟, 2020年6月24日-7月9日, 日顎変形誌 30(2): 154 頁, 2020.
- 24) 片桐 渉, 小林正治, 佐々木朗, 須佐美隆史, 須田直人, 田中栄二, 近津大地, 富永和宏, 森山啓司, 山城 隆, 齋藤 功, 高橋 哲: 本邦における外科的矯正治療に関する実態調査. 第30回日本顎変形症学会総会・学術大会(Webinar 開催), 新潟, 2020年6月24日-7月9日, 日顎変形誌 30(2): 127 頁, 2020.
- 25) 上村藍太郎, 竹山雅規, 小林正治, 齋藤 功: 下顎右側第二小臼歯の埋伏および下顎骨左方偏位を伴う骨格性下顎前突症例. 第30回日本顎変形症学会総会・学術大会(Webinar 開催), 新潟, 2020年6月24日-7月9日, 日顎変形誌 30(2): 201 頁, 2020.

- 26) 河村智子, 小林正治, 齋藤 功: 叢生および下顎右方偏位を伴う骨格性下顎前突症例. 第30回日本顎変形症学会総会・学術大会 (Webinar 開催), 新潟, 2020年6月24日-7月9日, 日顎変形誌 30 (2): 201頁, 2020.
- 27) 中田樹里, 小林正治, 齋藤 功: 開咬、下顎右側側切歯先天性欠如および下顎頭の軽度変形を伴う下顎後退症 (上顎前突). 第30回日本顎変形症学会総会・学術大会 (Webinar 開催), 新潟, 2020年6月24日-7月9日, 日顎変形誌 30 (2): 202頁, 2020.
- 28) 阿部 遼, 小林正治, 齋藤 功: 下顎骨の軽度右方偏位およびガミースマイルを伴った Angle Class II 上顎前突症例. 第30回日本顎変形症学会総会・学術大会 (Webinar 開催), 新潟, 2020年6月24日-7月9日, 日顎変形誌 30 (2): 198頁, 2020.
- 29) 竹山雅規, 齋藤 功, 小林正治: 叢生および片側性交叉咬合を伴う著しい顔面非対称症例. 第30回日本顎変形症学会総会・学術大会 (Webinar 開催), 新潟, 2020年6月24日-7月9日, 日顎変形誌 30 (2): 199頁, 2020.
- 30) 市川佳弥, 丹原 惇, 朝日藤寿一, 宮田昌幸, 親松宏, 新美奏恵, 児玉泰光, 小林正治, 高木律男, 齋藤 功: PNAM 治療の外鼻形態の対称性に対する効果—第1報 PNAM 実施症例と非実施症例の外鼻形態の比較—. 第44回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 名古屋, 2020年6月4日-5日, 日口蓋誌 45 (2) : 179頁, 2020.

【研究会発表】

- 1) Mana Hasegawa, Masanori Otake, Rantaro Kamimura, Isao Saito, Noritaka Fujii, Kensuke Yamamura, Keiichiro Okamoto: Inhibitory effects of daily treadmill running on masseter muscle hyperalgesia under psychosocial stress conditions in male mice. 第98回日本生理学会大会, Web 開催, 2021年3月

【受賞】

- 1) 長崎 司, 栗原加奈子, 堀 一浩, 高橋功次朗, 丹原 惇, 福井忠雄, 小野高裕, 齋藤 功: 下顎前突症患者における嚥下時舌圧および顎顔面筋群筋活動の検討. 第30回日本顎変形症学会総会・学術大会優秀ポスター賞, 新潟, 2020年6月24日-7月9日, 日顎変形誌 30 (2): 162頁, 2020.
- 2) 齋藤大輔, 原 太一, 佐久間英伸, 長谷部大地, 新美奏恵, 丹原 惇, 片桐 渉, 齋藤 功, 小林正治: デジタル立体写真測量法とコンピューター断層撮影法から得られた三次元顔貌形態の比較.

第30回日本顎変形症学会総会・学術大会 (Webinar 開催), 新潟, 2020年6月24日-7月9日, 日顎変形誌 30 (2): 145頁, 2020.

摂食嚥下リハビリテーション学分野

【著書】

- 1) 井上 誠: 高齢者のドライマウスによる摂食嚥下障害. 新潟県作業療法士会学術誌 15巻, 48-49, 2021. 1.
- 2) 井上 誠: 嚥下誘発にかかわる咽喉頭感覚の分子生理学. 嚥下障害パンデミックに挑む最新リハビリテーション医学・医療, Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, Vol58, 11-18, 2021. 1.

【論文】

- 1) Naoko Ogino, Akinori Funayama, Kanae Niimi, Toshihiko Mikami, Makoto Inoue, Tadaharu Kobayashi: Evaluation of factors affecting health-related quality of life in patients treated for oral cancer. *Advances in Oral and Maxillofacial Surgery Volume 2*, April-June 2021, 100057. <https://doi.org/10.1016/j.adoms.2021.100057>.
- 2) Tomoki Kanbayashi, Kengo Kato, Ryoukichi Ikeda, Jun Suzuki, Yohei Honkura, Ai Hirano-Kawamoto, Jun Ohta, Hitoshi Kagaya, Makoto Inoue, Masamitsu Hyodo, Koichi Omori, Atsushi Suehiro, Tatsuma Okazaki, Shin-ichi Izumi, Shigeto Koyama, Keiichi Sasaki, Yoshihiko Kumai, Takaharu Nito, Shinichi Kuriyama, Takenori Ogawa, Yukio Katori: Questionnaire survey on pharyngolaryngeal sensation evaluation regarding dysphagia in Japan. *Auris Nasus Larynx*. 2021 Feb 14;S0385-8146(21)00041-9. doi: 10.1016/j.anl.2021.01.022.
- 3) Izumi Kochi, Eri Takei, Rumiko Maeda, Kayoko Ito, Jin Magara, Takanori Tsujimura, Sirima Kulvanich, Makoto Inoue: Changes of bolus properties and the triggering of swallowing in healthy humans. *J Oral Rehabil*. 2021 Jan 22. doi: 10.1111/joor.13151. Online ahead of print.
- 4) Akiko Yawata, Takanori Tsujimura, Ryosuke Takeishi, Jin Magara, Li Yu, Makoto Inoue: Comparison of physical properties of voluntary coughing, huffing and swallowing in healthy subjects. *PLoS One*, 2020 Dec 3;15(12):e0242810. doi: 10.1371/journal.pone.0242810. eCollection 2020.
- 5) Sirima Kulvanich, Kayoko Ito, Eri Takei, Haruka Sakai, Risa Suzumi, Jin Magara, Takanori Tsujimura, Makoto Inoue: Impact of oral and swallowing function on the